

道徳学習指導案

指導者 牟田 小百合

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 1 日 (木)
- 2 学 年 第 4 学年 2 組 26 名 [4 年 2 組教室]
- 3 主 題 名 家族の助け合い [4 - (2) 家族愛]
- 4 資 料 名 「お母さんのせいきゅう書」(出典「ゆたかなところで」東京書籍)

5 主題設定の理由

- 家庭は児童の日常生活において基盤となるものである。生まれてから過ごしてきた家庭の中で育まれた人間性や道徳性は、人々との関わりや社会生活を送る上での基盤にもなる。また、家族がそれぞれに役割をもち、協力し合っていることを理解することで、家族の自分への愛情に気がつき、自分も家族の一員として積極的に役に立とうとする意欲にもつながる。

この段階の児童は、日常生活の営みの大半を家族に頼っている。しかし、自分の生活が家族によって支えられていることには気づきにくく、家族に対する感謝の思いを抱くことは難しい。また、自分自身も家庭生活を支える一員であるという自覚は薄く、楽しい家庭生活のために自分が果たすべき役割についての意識も低い。このような状況にある児童にとって、父母や祖父母への敬愛の念を深め、家庭生活により積極的にかかわろうとする心情をもつことは大切である。そのために、自分が家族の役に立てるという実感を具体的にもつことは、家族愛について考える契機であるといえる。このような段階を踏んで、自分が家庭における重要な一員であることの自覚を深めることによって、協力し合って楽しい家庭をつくらうとする積極的な姿勢をもつことができる。

- 本学級の児童は、学級の係活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる。何事にも興味をもって活発に活動し、自分の決められた仕事を最後まできちんとやり遂げる児童もいる。家庭での仕事とお手伝いについてアンケートを行ったところ、「やらなくてはいけない」「やったほうがよい」という児童が大半だった。その理由としては「家の人が楽になるから」「お家の人が助かるから」や「お家の人が喜ぶから」と答えており、自分のすることが家族のためになるという実感をもった経験はあると考えられる。一方で、決められた仕事だめではなく、自分から進んでできることを見つけたり、人のためになることを率先してしたりすることはできにくい。その背景には、自分のやりたいことを優先したい気持ちが強いことや、人のために進んで働くことを自分にとっての負担と捉えているために、その良さに気付いていないことが考えられる。夏休みに家庭で取り組んだ仕事について振り返ると、毎日確実にすることができた児童はほとんどいなかった。多くの児童は「何回か忘れてしまった」と答えており、家庭の中で自分の役割を果たすことや家族のために働こうとする意識の低さがうかがえる。
- 本資料は、主人公のたかしがお手伝いの報酬をもらうために、おかあさんに請求書を渡すところから始まる。始めは、思い通りに報酬をもらっていい気になっていたたかしであったが、反対にお母さんから請求金額が 0 円の請求書をもらう。たかしはその請求書を読み、自分の自己中心

的な考え方を反省するとともに、お母さんの自分への愛情に触れ、これからは報酬のためではなく積極的に家族の役に立とうとする心情をもつ。このようなたかしの心情の変化を話し合うことで、家族の自分への愛情や自分の生活が家族によって支えられていることに気付くとともに、自分が家庭における重要な一員であることへの自覚を深め、積極的に家族に協力しようとする心情を育てることができる考える。

指導に当たっては、児童がたかしの心情にしっかりと寄り添って話し合うことができるよう、教師の範読のみによって進めていく。また、請求書とお母さんの請求書を対比的に捉えさせることで、自分がいかに家族に支えられているかに気付くとともに、自らも家族のために役割を果たそうとする心情を芽生えさせたい。基本発問では、お母さんに請求書を書いた時のたかしの心情と、思惑通り報酬をもらえた時のたかしの心情を話し合うことで、たかしの家族の一員としての意識の低さと報酬を期待してしまう身勝手な欲深い気持ちに共感させる。中心発問では、なぜお母さんが請求金額が0円の請求書を書いたのかを考えることで、自分とお母さんの家族に対する愛情や果たしている役割の大きさの違いにも気付かせたい。終末では、保護者から児童に宛てた、児童が家族の一員として協力したことへの感謝の気持ちを書いた手紙を読むことで、実際の家族からの気持ちに触れて、家族の一員として協力することの喜びや意欲をより深く感じられるようにする。

6 準備物

場面絵 お母さんとたかしの請求書(掲示用) ワークシート 保護者からの手紙

7 ねらい

- おかあさんからの請求書を見たときのたかしの心情を話し合うことを通して、家族の自分への愛情に気づき、自らも家族のために役割を果たそうとする心情を育てる。

8 本時のポイント

児童が主人公たかしに自分を重ねて心情を捉え、自分の思いを明確にして話し合うことができるようにするために、ワークシート活用して書く活動を取り入れる。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 家庭でしているお手伝いや自分の仕事を交流する。	○みんなは普段家で、どんなお手伝いや仕事をしていますか。 ・毎朝、新聞を取る。 ・食器洗いをしている。 ・玄関を掃除している。	○ 家庭の仕事をしている時の様子を想起することで、資料への興味を高める。

展開前段	<p>2 資料「お母さんのせいきゅう書」を読んで話し合う。</p>	<p>○たかしはどんなことを考えながら、お母さんに請求書を書いたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お小遣いが欲しいな。 ・お母さんはこれを読んだらどんな顔をするかな。 ・せっかくやったのに、何ももらわないのは損だ。 <p>○たかしは500円をもらって、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やったぞ。 ・思った通りもらえたぞ ・作戦が成功したな。 ・働いたんだからお金をもらって当然だ。 ・また請求書を書いてお小遣いをもらおう。 <p>◎請求書を読んだあと、たかしはどんな気持ちでお母さんのそばにかけよったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あんな請求書を書いて、ごめんなさい。 ・お母さんはお金を欲しがっていないのに、あんな請求書を渡して申し訳ない。 ・お小遣いをもらおうなんて、自分勝手に恥ずかしい。 ・お母さんは自分へのご褒美のことは考えずに、ぼくのために色々なことをしてくれているんだ。 ・家族のために何かするのは当たり前のことなんだ。 ・お小遣いをもらえなくても、家族のために働きたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ たかしの書いた請求書を掲示して、請求書の意味やたかしの要求を確認する。 ○ たかしが何を考えながら請求書を書いたのかを話し合うことで、たかしの報酬を期待する気持ちに共感させる。 ○ 中心場面でのたかしの反省する気持ちにより深く共感できるよう、たかしの身勝手に欲深い心情に気付かせる。 ○ 児童が自分の思いを明確にできるよう、ワークシートに書かせる。 ○ お母さんの請求書が0円なのはなぜかや、お母さんからの請求書を見てはっとしたたかしが何に気がついたのかを考えさせることで、お母さんとたかしとの違いに気付かせる。 ○ たかしの心情の変化を自分と重ねて捉えられるよう、たかしの最後の発言はふせたまま話し合わせる。
展開後段	<p>3 今までの自分を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに家族のためにどんなことをしましたか。 ・玄関の掃除をして、気持ちがいいと言ってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行動だけでなく、そのときの家族の反応や気持ちも振り返らせることで、家族の一

		<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂洗いをしたら，助かったと言ってもらってうれしかった。 ・洗濯物をたたむのを手伝ったら，喜んでくれたからまたしようと思った。 ・家族の役に立てたから，やってよかったなと思った。 	<p>員として協力することの喜びや意欲をより深く感じられるようにする。</p>
終末	4 保護者からの手紙を読む。	○おうちの人からの手紙を読みましょう。	○ 実際の家族の感謝の気持ちに触れることで，家族の一員として協力することの喜びを感じさせる。